

8月もいよいよ終わり。いやあ、暑かったですねえ…、と言いたいところなれど、今年の夏、それも特に東京はあんまり「暑かった」とは言い難い状況でした。毎日毎日雨が降り、連続降雨日の記録更新の一手前だったとか。涼しいのはそれなりに良いのだけれど、これもまた「温暖化現象の一環じゃ」なんて言われると半信半疑、眉に唾つきたくなります。

そんな中、例によってあちこち出歩いたところ、例によっていろんな写真を撮ることが出来ました。例によってその一部をご披露しましょう。



最初はいつもの如く、チョウの話題。この写真のチョウ、見たことがありますか？あんまりないでしょう。これは「エルタテハ」と言う、やや北方系のタテハチョウです。実は私もこのチョウには初見参、当然初撮影。撮影場所は富士山の五合目、富士登山の途中で出会いました。え？富士山のとっぺんまで登ったのかって？いやいや、五合目付近をウロウロしてチョウや花や鳥などを観察しただけです、頂上には行ってません。でも、北側から見上げる富士山は、いつもの形と全然違って、新鮮で、驚きました。



続いてもう一つチョウの話題。この写真、なんだか判りますか？エノキの若葉にわがもの顔で寝そべってる、そう、アカボシゴマダラの幼虫です。2000年前後にかけて中国あたりから日本に侵入してきた(一説には人為的に放虫された、いわゆるゲリラ放蝶とも言われてる)種です。8月の初め頃、私の自宅近くの道路沿いで見つけました。可愛いけれど、ゲリラと聞くとなんとなく憎たらしきもあるよね。



次はこれまた富士山麓で見つけた植物。ミヤマハンノキの根に寄生する、オニク、別名黄紫茸(キムラタケ)ともいう、ハマウツボ科の一年草。乾燥したものを強精剤として利用するそうで、持ち帰って売りに出せば一株5000円ぐらいで売れるんだってさ！よ～し、持って帰ろうか！と冗談で口には出しても、実行しないのが良識の持ち主である証拠。この姿を見ると、見るからに強精作用がありそう、だよ。



最後はちょっぴり高尚なお話。この人物、だーれだ？実はこれ、松尾芭蕉なんです。時は元禄2年(1689年)、芭蕉は奥の細道の旅へ出発しますが、当時住んでた所が現在の江東区は深川だったらしい。お盆の最中のアルキで、清澄公園近くを歩いてたらこの像に出会いました。この家が採茶庵と言う、当時の芭蕉の住処だったらしい。よく見ると、気のせいか、俳人の面影ゆかし、ですよ。ここを出発点として、「芭蕉俳句の散歩道」なる小径があり、道端には芭蕉の名句が18句も書き並べられているらしいです。

といった所で今月の Photo World はお終い。こんな調子で、これからも続けますので、ご臍に。ご感想やご意見などはこのアドレスへ、遠慮なく、どうぞ。 haradah@rapid.ocn.ne.jp